

委員からの事前質問及び回答

委員からの質問

●7 子ども・子育て支援の提供を行う関係機関相互の連携

(1) 関係機関の連携会議の開催 [資料② 3ページ]

・今ある会議の中でさらなる充実の方向性か、新たに会議を創設するのでしょうか。

→ 関係機関の連携会議につきましては、新たな会議を設けるのではなく、既存の会議におきまして更なる充実を図ってまいりたいと考えます。個々の会議において課題等の意見交換時に、関係機関の幅を広げての対応が必要となった場合は、必要となる関係機関を招集した会を個別で開催することで対応を行いたいと考えます。また、今後の国の動きを見て、既存の会議の在り方では不都合が生じた場合には、新たに会議を設けることも考えてまいります。

委員からの質問等

① 2 相談支援・情報提供 [資料② 1 ページ]

- ・「ヤングケアラー」の当事者の子ども達は大変見えにくい状況下にあります。子どもが声をあげやすい場となる相談体制を整えることはもちろん必要ですが、子どもひとり一人がどういう状況下にあるかということ把握することも必要です。学校等での子どもの状況把握、配慮、をお願いしたいです。

→意見としていただきました。

② (5) 施設管理計画 [資料② 2 ページ]

- ・統合等の決定しているものに対して、計画日程を記載して欲しいです。
→施設管理計画のうち、「中央保育所・西幼稚園」は令和6年度、「土居保育所」は令和7年度に認定こども園への移行の準備を進めておりますので、計画には下記のように記載いたします。

中央保育所・西幼稚園	➡	新しい「こども園」として統合（令和6年度を予定）
土居保育所	➡	城北こども園に統合（令和7年度を予定）
青ノ山保育所・城東幼稚園	➡	新しい「こども園」として統合
英語保育園 Prince&Princess	➡	地域裁量型認定こども園に移行

③ 7 子ども・子育て支援の提供を行う関係機関相互の連携 [資料② 3 ページ]

- ・連携会議の具体的な計画はありますか？
様々な相談を受けており、それが数字の報告のみとなっており、解決に至らない事案はたくさんあります。その家庭の課題に対し何が足りてないのか、必要なのか、どう支援していけばいいのか、それぞれの機関であると思うので、協議の場は必要です。

（高木委員からの質問と同回答となります）

- 関係機関の連携会議につきましては、新たな会議を設けるのではなく、既存の会議におきまして更なる充実を図ってまいりたいと考えます。個々の会議において課題等の意見交換時に、関係機関の幅を広げての対応が必要となった場合は、必要となる関係機関を招集した会を個別で開催することで対応を行いたいと考えます。また、今後の国の動きを見て、既存の会議の在り方では不都合が生じた場合には、新たに会議を設けることも考えてまいります。

④その他の課題

- ・ひとり親家庭の子どもの発達に課題がある子どもたちの進学に悩まれている保護者の声を聴きます。学習障害があるけれども進学（高校）を望んでいるが、普通校の受け入れは難しい。私立は高くて無理。学びたいと思う子どもの受け入れ体制が欲しいが、どのような方法があるでしょうか？
 - 各中学校では、進学に対する悩み等があれば、担任だけでなく、進路指導主事や特別支援教育コーディネーターを交えて、個別相談を行い、個別の教育支援計画やサポートファイル「かけはし」を活用しながら、学校卒業後までを見通した指導・支援をしています。

- ・国の方で子育てチケットの計画がでていますが、三豊市はすでに実施されています。丸亀市においても、そういったチケット制の取り組み検討して欲しい。
 - 丸亀市では、この制度に近いものとして「ハッピーファーストバースデー事業」として、1歳児の子育て家庭に支援品をお渡ししております。また、「多子世帯出産祝金支援事業」として、3人目以降の子どもの出産時に祝金をお渡ししています。新たな制度につきましては、今後の国の動きを注視し検討してまいりたいと考えます。

- ・広域入所の制度を丸亀市は行っておらず、以前から困っておられる声を受けています。実施はできないのでしょうか？
 - 丸亀市においては、以前から1号認定児の広域利用は行っておりますが、2号・3号認定児につきましては、待機児童が発生している間は待機児童を優先するため、広域利用の受け入れが困難な状況にあります。

- ・保育所の一時預かりは、定期的預かりが多く、本当に困った時になかなか使えない状況です。NPOの拠点等で受け皿になっていますが、長時間長期間になると、自己負担もかさむので子育て家庭には申し訳ない状態です。定期的預かりを少なくすることは難しいのでしょうか？
 - 丸亀市においては、年度途中の入所希望者が待機児童となっており、保育所等での一時預かりがそれらの待機児童の受け皿となっているのが現状です。引き続き、待機児童解消のため、保育士確保に努めてまいります。